のである．これが今度與へられた一〇八八番に相當するもので，現在さりあへず TOKYO 7 の名稱が附されてゐる．

一〇八九番は最初の一〇八八番が發見されて四日目の十七日に同じ附近に發見されたもので，當時光度一二・六等，TOKYO 8 と稱され，最後の一〇九〇番は昨年二月二十日，小惑星「アラベラ」搜索のため作られた寫眞板によつて發見され TOKYO 12と稱されてゐる，而もこの星は東京の發見より四日おくれてラインムートによつて發見されてゐる．

昭和二，三年邦文天文書一覽

水 野 千 里

理學博士　新城新藏著

1. 宇宙大觀	1 册	¥ 2.80	岩波書店
2. 東洋天文學史研究	1.	5—	弘文堂書房
3. こよみと天文	1.	3.50	同上

理學士　關口鯉吉譯

4. 新時代の宇宙研究	1.	2.50	岩波書店

天文同好會編

5. 天文學論文集　第一輯		2—	警醒社書店

理學士　松澤武雄著

6. 地球物理學	1.	2.80	古今書院

野尻抱影著

7. 肉眼，雙眼鏡 小望遠鏡觀測　星座めぐり	1.	3—	研究社

天文同好會編

8. 天文年鑑	1.	1.50	新光社

東京天文臺編纂

9. 理科年表　昭和三年		1.50	丸善株式會社

10. 仝　昭和四年　1.50　同　上

日本天文學會編

11. 新撰恒星圖　1—(上輻 4.50. 特軸 6—)　三省堂

12. 恒星解說　1.　0.70　同　上

最新科學講座の中

13. 天文學　國民圖書株式會社

科學畫報

14. 宇宙及天體號　1.　1—　新光社

15. 星のローマンス號　1.　0.80　同　上

16. 日本の科學界　1.　1.50　同　上

1.2.3. は嘗て新城博士の新聞や，雜誌で發表された論文を集められたものである．1 は通俗論文であるが，2 は明治四十一，二年頃から東洋天文學の歷史を研究されて以來の論文集で，3 ミは姉妹編である．2 は次の九篇に分たれて居る．東洋天文學史大綱，周初の年代，二十八宿の傳來，春秋長歷，歲星の記事によりて左傳國語の製作年代ミ干支紀年法の發達ミを論ず，再び左傳國語の製作年代を論ず，漢代に見えたる諸種の曆法を論ず，戰國秦漢の曆法，干支五行說ミ顓頭曆．3 は帝王學ミしての天文學，北京の天壇，天文學上より見たる支那上代の文化，東洋文明の淵源に關する論爭其一，其二，生霸死霸考，支那上代の紀年，所謂天地開闢の年代，干支紀年，十二支獸の起原，天の龍，曆ミ年中行事，曆日及び方位に關する迷信，人の運命に關する迷信，現行太陽曆改正の問題，近世に於ける曆ミ天文學の歷史，現代天文學の十七篇が載せてあつて是非熟讀すべき良書である．

4. ジョージ，エラリー，ヘール著「星鄕新說」「星海の深みへ」の二篇は關口理學士の譯されたものである．

5. 天界に嘗て揭載された外國天文學者の論文集である．

6. 寺田先生の地球物理學を買ひそこなつた余は，その門下松澤理學士

の地球物理學を手にすることを得た．本書は地球物理學の範圍及び地球物理學の沿革から說き起し，地球の形と大いさと地球內部の構造との兩篇は天文學者の一讀すべきものである．

7.　本書は星座巡禮の姉妹篇で，常に座右に備へ付け見るべき本である．書中の每年每月の星圖は初學者の必讀すべきところ，雙眼鏡と小望遠鏡の話とも參考になる．

8.　本邦最初の天文のみに關する年鑑で，それがわれわれの天文同好會から世に出されたことが，何より嬉しい．

9. 10. 理科年表が旣に五冊發刊された．今後も引續いて年々手にしたい．

11. 12 は明治四十三年に出版され，その後久しく絕版になつて居たものを再版されたもので，11 は書齊に一幅は揭げて朝夕眺めるべきもの，12 はその簡單な解說である．

13.　最新科學講座は目下第三版出版中であるが，第二版は十五冊（一冊貳圓參拾錢）からなつて「天文學」は井上四郎，小川淸彥，關口鯉吉，塚本裕四郎，神田茂諸氏の執筆されたもの，其の題目は月，四季の星座，太陽，惑星，彗星と流星，天文臺，曆の知識，恒星の諸篇である．

14. 15. 16.　科學畫報の特輯號であつて，日本の科學界中の「日本に於ける天文學史」はその緖言に我が日本には昔支那から傳はつて來た一種の天文學があつて，其れを基として曆學や易學が行はれてゐたものであるが，明治の初め，此等の舊學は全く見棄てられて，純粹な西洋の天文學が公けのものと認めらるゝに至つた．それでこゝにいふ天文學史とは西洋式の天文學の歷史を意味するのである」と述べ一，天文臺．二，文部省測地學委員會．三，曆と報時．四，天文硏究の業蹟．五，我國に於ける天文敎育.以上五章に分け，明治，大正年間の我が邦の天文學の歷史を知らんと欲するものは本文以外に全般に渡つて居るものを手にすることは出來まい．

（前記の外に兒童用のものが二，三出版されて居たが，本文を見ないので省いた）．